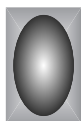


INFORMATION



弘前大学 大学院医学研究科 ポスドク募集

【職種】ポスト・ドクトラル・フェロー1名

【研究内容】ヒトてんかん遺伝子導入ラット等を用い、精神・神経機能解析を行動・電気生理学的手法により研究を行う。

【応募資格】博士の学位取得者

【提出書類】履歴書、業績目録

【採用時期】平成21年4月1日以降

【提出・問合せ先】

〒036-8562 青森県弘前市在府町5番地
弘前大学大学院医学研究科・脳神経生理学講座
上野伸哉
Tel: 0172-39-5137
e-mail: shinyau@cc.hirosaki-u.ac.jp



香川大学医学部薬理学 助教・外国人研究者の募集

助教1名、および外国人研究者若干名を募集しています。書類応募の後（提出期限6月30日）、面接にて選考いたします。研究内容は、<http://www.kms.ac.jp/~yakuri/>をご参照ください。

募集人員：助教1名（医学部長預かりポスト）

応募資格：39歳以下の博士号取得者（または取得予定者）

待遇など：香川大学の規定による（任期原則5年）

提出書類：①履歴書（写真付き）、②研究業績目録、③推薦書

募集人員：外国人研究者（ポスドク）若干名

応募資格：博士号取得者（または取得予定者）

待遇など：香川大学医学部の規定による。1年ごとの契約更新、詳細は別途相談

提出書類：①履歴書（写真付き）、②研究業績目録、③推薦書

問い合わせおよび応募書類送付先：

〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸1750-1
香川大学医学部薬理学講座 西山 成
(akira@kms.ac.jp)



The 11th International Symposium on Exocrine Secretion, Tokushima 09 Exocrine Secretion-Mechanism and Disease

会期 平成21年7月23日（木）～7月25日（土）

会場 徳島大学蔵本キャンパス 長井記念ホール、薬学部インフォメーションプラザ

主催 第11回外分泌腺機能国際シンポジウム

徳島09 組織委員会

討論主題

1. Development, Regeneration, and Tissue Engineering of the Glandular Tissue

2. Response of the Glandular Tissue to Environmental Stress and Neural/Hormonal Control
3. Regulation of Exocrine Gland by Taste Stimulation (*Ajinomoto-sponsored session)
4. Signal Transduction of the Glandular Tissue
5. Membrane Trafficking and Molecular/Cellular Dynamics in the Exocrine Secretion
6. Aquaporin and Ion Transporter: Physiology and Disease

*No paper will be called for in this session.

参加費 一般発表者 25,000円 大学院生発表者
10,000円 一般参加者 35,000円 大学
院生参加者 15,000円 学部学生 無料
懇親会 7月23日(金)参加費 一般 10,000円
大学院生 5,000円

申し込み方法 登録による(詳細はHPに掲載)

*参加登録・演題登録などは期日後も登録可能な
場合もありますので、下記連絡先へお問い合わせ
ください。

連絡先

第11回外分泌腺機能国際シンポジウム 徳島
09 組織委員会

URL : http://www.dent.tokushima-u.ac.jp/seiri/11th_ISES/ISES_top_1.html

E-mail 11th_ISES@dent.tokushima-u.ac.jp

委員長 細井和雄(徳島大学大学院ヘルスバイオ
サイエンス研究部教授)

hosoi@dent.tokushima-u.ac.jp

事務局 〒770-8504 徳島市蔵本町三丁目
18-15

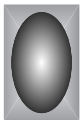
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス
研究部 口腔分子生理学分野

担当者 赤松徹也 akamatsu@dent.tokushima-u.ac.jp

電話/Fax 088-633-7324

本会開催のねらい

本会は形態学、生理学、生化学、薬理学、病理学、細胞生物学等のあらゆる分野で、唾液腺、膵臓、消化器官、上皮系組織、副睾丸、心臓、肺、腎臓等の種々の臓器・組織を対象に、第一線で活躍されている専門の研究者達を世界各国から招集し、開催するものです。同じテーブルで共通の課題、外分泌腺の機能、外分泌機構、外分泌腺異常・破綻による疾病等に関する最新の研究成果をご議論いただき、成果の摺り合わせを行い、新しい概念を模索すると同時に、臨床応用へ連結する芽を育むことを目的としています。



2nd School of Neuroendocrinology 2009

(第2回神経内分泌スクール2009)開催のお知らせ

日時:平成21年8月2日(日)~4日(火)

目的:アジア・オセアニア、日本における神経
内分泌学を志す若手の育成

対象:アジア・オセアニア、日本の神経内分泌
学を志す若手研究者(40歳以下)(大学
生、大学院生、ポスドク含む)

定員:30名程度

開催場所:JR博多駅集合(8月2日13時)→由布
院(ゆふいん山水館)(8月2日~3日)

→北九州(産業医科大学)(8月4日)

*ゆふいん山水館

〒879-5196 大分県由布市湯布院町川
南108-1

TEL:0977-84-2101

FAX:0977-85-2155

URL:<http://www.sansuikan.co.jp/>

プログラム:Lecture (Neuroanatomy in
Neuroendocrinology, New Method-
ologyなど), Round Table, ポスター
発表, トレーニングコース

URL:<http://www.uoeh-u.ac.jp/kouza/1seiri/school2009.html>

参加費：15,000 円(宿泊+朝食費, ランチ, ソシアルイベント代含む)

参加登録締切：平成 21 年 5 月 5 日 (火)

世話人：上田 陽一 (産業医科大学医学部第 1 生理学)

共 催：日本神経内分泌学会, 国際神経内分泌学会

事務局：横山 徹 (産業医科大学医学部第 1 生理

学)

〒807-8555 北九州市八幡西区医生ヶ丘 1-1

TEL：093-691-7420

FAX：093-692-1711

E-mail：school2009@mbox.med.uoeh-u.ac.jp



助教あるいは講師募集

金沢医科大学医学部 生理機能制御 (生理学 II)

[研究内容]

当研究室では, 1) アナフィラキシーショックをはじめとする循環ショックの病態生理, 2) 摘出灌流肝臓を用いた肝循環の生理について, 主として in vivo および organ level での研究を行っています. 詳細は教室ホームページ <http://www.kanazawa-med.ac.jp/~physiol2/>, 業績紹介英文の項目を参照してください.

今回, 研究と教育に従事する助教あるいは講師を 1 名募集します.

[募集人数] 助教あるいは講師 1 名

[募集期間] 本募集の公開と同時に募集を開始します.

ただし, 採用者決定次第, 締め切ります.

なお, 平成 21 年 5 月末日までには決定したいと思います.

[募集資格]

- 1) 大学院博士課程修了者で, 博士の学位を取得しているもの.
- 2) 採用時の年齢が 35 歳未満であること. 講師の場合はこの限りではありません.
- 3) in vivo の実験の経験を有する. あるいは, in vivo 実験に興味をもち, 行う意思がある.
- 4) 循環生理あるいは平滑筋の生理の研究経験があることがのぞましい.
- 5) 教員として研究だけでなく, 医学部学生への講

義・実習にも積極的に取り組む意思があること.

- 6) 現在あるいは過去に指導を受けた研究者の推薦書 1 通.

医学部出身者がのぞましいが, 出身学部は問いません.

外国からの応募も歓迎しますが, 書類選考を通過された場合は, 面接に来ていただく必要があります.

[雇用期間] 助教の場合は任期制 (3 年), 任期終了時には再任あるいは permanent の雇用の可能性あり. 講師採用の場合は permanent.

[提出書類]

- 1) 履歴書 (写真貼付, 書式は任意)
- 2) 論文リスト (全著者名, 論文題目, 雑誌名, 巻数ページ, 発行年を記入すること)
- 3) 主要論文 5 編以内の別刷 (コピー可)
- 4) これまでの研究の経緯, 自ら遂行可能な研究手技 (1000 字程度, 書式は任意)
- 5) 研究・教育に対する今後の抱負 (800 字程度, 書式は任意).

(応募書類は返却いたしません. 応募の秘密は厳守いたします.)

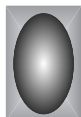
[赴任時期] 採用決定次第, 早い時期. 相談に応じます.

[送付先および問い合わせ先]

〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学 1-1

金沢医科大学医学部・生理機能制
御学(生理学II)教授 芝本利重
電話：076-218-8104

FAX：076-286-8010
E-mail：shibamo@kanazawa-med.ac.jp
URL：http://www.kanazawa-med.ac.jp/~physiol2/



東京大学大学院医学系研究科機能生物学専攻 博士課程・修士課程入試説明会

研究に熱意のある人を広く求めます。参加に当たって前もっての連絡は不要です。参加者の出身学部は問いません。

日時：平成21年5月23日(土)14:00—15:30
(説明会後各研究室を見学できます)

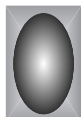
場所：東京大学医学部 教育研究棟 13階
第6セミナー室

研究分野及び教室主任

- ・統合生理学・認知科学：宮下 保司
(physiol@m.u-tokyo.ac.jp)
認知と記憶の脳メカニズム
<http://www.physiol.m.u-tokyo.ac.jp/>
- ・細胞分子生理学：森 憲作
(moriken@m.u-tokyo.ac.jp)
嗅覚と情動の脳神経メカニズム
<http://morilab.m.u-tokyo.ac.jp/>
- ・神経生理学：狩野 方伸
(mkano-tky@m.u-tokyo.ac.jp)
中枢シナプスの機能発達と可塑性
<http://plaza.umin.ac.jp/~neurophy/>

- ・細胞分子薬理学：飯野 正光
(iino@m.u-tokyo.ac.jp)
カルシウムシグナルと中枢神経系ネットワーク機能
<http://calcium.cmp.m.u-tokyo.ac.jp/>
- ・分子神経生物学：三品 昌美
(mishina@m.u-tokyo.ac.jp)
記憶・学習とシナプス形成の分子機構
<http://www.pharmacol2.m.u-tokyo.ac.jp/>
- ・構造生理学：河西 春郎
(hkasai@m.u-tokyo.ac.jp)
脳シナプスの2光子顕微鏡による研究
<http://www.bm2.m.u-tokyo.ac.jp/>

問合先：東京大学大学院医学系研究科
機能生物学専攻 細胞分子生理学教室
森 憲作
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
FAX：03-5800-6845



SORST シンポジウム (3) 「遺伝子改変マーマウス研究の新展開」のご案内

主催：独立行政法人科学技術振興機構
日時：2009年4月27日(月)10:00~18:00
会場：コクヨホール(東京・品川)
交通：JR品川駅港南口から徒歩5分
参加費：無料(研究交流会参加費3,000円(当日徴収))
内容：今、遺伝子改変マーマウスは実験動物として、特に脳・神経系の研究やiPS細

胞技術の臨床応用へのモデル動物として、その技術開発に大きな期待がかけられています。本シンポジウムはこの研究の現状と課題を紹介し、将来展望を語り合うことを目的としています。

主な講演項目：

第1部「実験動物としてのマーマウスとその発生工学的研究」

「マーマセット研究の総括：イントロダクション」

慶應義塾大学医学部
教授 岡野栄之

「実験動物としてのマーマセットの確率と解析方法」

(財) 実験動物中央研究所
研究担当副所長 玉置憲一

「マーマセットにおけるゲノムマーカーの開発とその応用」

浜松医科大学
准教授 加藤秀樹

「遺伝子改変マーマセットの作出と今後の展開～発生工学からiPSまで～」

(財) 実験動物中央研究所
室長 佐々木えりか

「マーマセットによる高次認知機能研究の期待と展望」

理化学研究所脳科学総合研究センター
チームリーダー 入来篤史

第2部「マーマセットのバイオメディカルへの応用」

「Hepatocyte growth factorによる脊髄損傷治療戦略～マーマセットを用いた前臨床試験～」

慶應義塾大学医学部 北村和也

「霊長類による免疫疾患モデル作成に向けた基盤整理」

順天堂大学 教授 垣生園子

「ヒト血液疾患モデルとしてのマーマセットの可能性」

九州大学生体防衛医学研究所
教授 谷憲三朗

「薬効評価研究に利用されるマーマセット・パーキンソン病モデルの特性～カニクイザル・モデルとの比較～」

(財) 実験動物中央研究所 安東 潔

「マーマセットを用いた再生心筋細胞移植モ

デルの開発」

慶應義塾大学大学院医学研究科 福田恵一
第3部「世界をリードするマーマセット研究、その課題と展望」

「マウスを超える実験動物にするための克服すべき課題と期待」

自然科学研究機構 理事 勝木元也
「世界及び日本の実験動物としてのマーマセットの現状と課題」

(財) 実験動物中央研究所
事業担当副所長 野村龍太
「サイエンスパーク構想の現状」

川崎市臨海部活性化推進室
室長 小林延秀
「霊長類を用いた脳科学研究の展望」

自然科学研究機構生理学研究so
教授 伊佐 正
「マーマセット研究の課題と展望」

慶應義塾大学医学部
教授 岡野栄之

詳細については、下記 URL をご覧ください。

<http://www.jst.go.jp/kisoken/sorst/sympo/sorst-sympo3.pdf>

お問い合わせ先：科学技術振興機構 (JST) SORST
シンポジウム (3) 事務局
TEL : 03-3512-3526
E-mail : s-sympo3@yaesu-sorst.jst.go.jp

参加申込み：下記 URL の★登録フォーム★から参加登録を行ってください。

<http://www.jst.go.jp/kisoken/sorst/>